



クラブ&サークル活動・戦歴



吟詠剣詩舞部

吟詠剣詩舞とは、昔の中国・日本の故事や歴史的な出来事を題材にした詩に節をつけ謡ったもの(詩吟)に合わせて、刀や槍または扇子などを用いて舞う伝統芸能のことです。現在、部員10名で地域の文化祭や納涼祭などのイベントや、京都で行われている全国コンクールへの参加を中心に活動しています。練習は週に2回、外部から先生をお呼びして指導していただいています。刀や扇子の扱いはそこまで難しいものではないので、楽しみながら練習に励んでいます。また未経験でも先生が丁寧に指導して下さるのですぐに慣れることができます。詩に込められた意味、作者の心情、詩吟の背景などを舞で表現するので、同じ吟でも流派や個人によって表現の型はまったく違ってきます。もし、私たちの舞を見かける機会があった時はどういった表現をしているかなどを注意深く見ていただければ嬉しいです。これからも活動を通して吟詠剣詩舞の魅力を伝えていきたいと思っています。



空手道同好会

私たち空手道同好会は現在男子5名、女子3名、計8名で活動しています。私たちは井上派系東流慶心会という流派に所属しており、年に4回行われる昇級・昇段審査に参加したり、試合にも積極的に参加しています。私たちが行っている空手はノンコンタクト形式といって、パンチを寸止めをするという形式の空手を行っています。活動の内容は週2回体育館にて主に空手の組み手の練習や型の練習をしています。空手の練習と聞くと固いイメージがあるかもしれませんが、私たちは他にもゲーム形式の練習やミットを打つといったようなストレスを発散するような楽しい練習もしています。また、週2回の練習以外にも希望者には所属している流派の道場で練習することもできます。私たちは一人一人目的を持って活動しており、黒帯を目指して活動する者、試合で勝つために練習に励む者、護身術として身につけてみたいという者といったようにそれぞれが目的を持ち、その目的を達成するために各々自分のペースで練習に励んでいます。



人事報告

New Face

鳥取環境大学に新しく就任される先生に抱負を語っていただきました



環境政策経営学科
北崎 寛 教授

民間企業に19年間、大学に16年間勤務し、企業と教員歴がほぼ半ばする年数となりました。企業経営を専門分野として参りましたが、最近では農業生産法人を中心に農業経営にも関心を持つようになりました。長く教職に携わり、学生諸君を教えることの喜びと同時に、その難しさも実感してきました。大学4年間は長いようで短く、短いようで長く、学生にとり様々な意味でデリケートな期間であると思います。大学で「学ぶ」こ

とは多岐にわたりますが、「学ぶ」姿勢をどのように形成するか、これが最も大切な点です。船乗りの世界に『帆が教える』という言葉があるそうです。「霧と風の大海原の中、漂流し始めた帆船を仲間と力を合わせて操り乗り切る」これが『帆が教える 帆に学ぶ』ことの意味なのでしょう。学生は4年間の航海に出る訳ですが、授業・仲間や教師は学びの源泉となる帆と言えるでしょう。学問と格闘し、また先生や仲間と一生懸命コミュニケーション力を合わせる。4年間霧と風の数々の試練を経て無事航海を終えたとき、きっと学生の目は輝きを増し、逞しい大人になっていることでしょう。



環境政策経営学科
付 馨 講師

日本に来てから、早くも9年の歳月が流れました。大学講師への就任は私にとって人生の大きな一

歩です。今まで多くの方々に助けられました。今後はその恩に報いるべく、より多くの人々を助けるように教育活動と社会貢献に努めていこうと考えております。大学は知識の伝授と人間性の育成を目的とする場で、高度な学問と豊かな人間性を持つ学生を育てることは私たち教育者の責任です。それを実行するために全力を尽くして、頑張っていきます。私は学生生活から離れたばかりですので、学生の気持ちをよくわかり、それを理解した上で教育活動に従事したいと考えております。また、自分自身の留学経験を活かし、国外にも目を向けられる高級人材の育成に努めたいです。4年の大学生活は、かけがえのない人生の重要な一時期です。この一期一会の出会いを大切に、会計の授業を通し、学生の皆様が充実した大学生活を過ごすように精一杯お手伝いいたします。



建築・環境デザイン学科
中橋 文夫 教授

新緑の美しい季節に、保護者の皆様方へご挨拶を申し上げる機会をいただき、嬉しく思います。

このたびは、ご令嬢、ご息様のご入学、まことにおめでとうございます。本学をご存知のように、わが国ではじめての環境を専門とする大学で、地球環境時代を迎えた今日、各界から本学への期待は高まっています。それに応えるため、私は実務家教員として今春着任しました。どうぞ、よろしくお願ひ申し上げます。私は長年、都市環境の質を高めるため、ランドスケープアーキテクトとして、緑とオープンスペースの計画設計活動を通じて、まちづくりのお手伝いをして参りました。主に美しい都市景観の創造、荒廃した里山の再生、公園緑地の設計、植物資源のリサイクル、国際花と緑の博覧会会場計画などの業務に従事してきましたが、問題課題は山積し、その解決策が本学に求められています。その期待に応えるために、入学されました皆様方が、これからのわが国の環境分野を担う人材に育つよう、私は全知全能を捧げる所存です。ともに汗を流し、叡智をきわめ、そして、4年後には環境ビジネス界へ大きく羽ばたけるよう、微力ながら全力を尽くすことをお誓ひ申し上げ、着任のご挨拶に代えさせていただきます。ありがとうございました。



環境マネジメント学科
荒田 鉄二 准教授

2009年4月に環境マネジメント学科に着任しました。講義は「環境と文明」、

「里山再生論」、「環境問題と住民生活」を担当します。前職は、吉備国際大学にて国際環境経営学部准教授を務めておりました。その前約10年間は、川崎市に事務所を置く環境NPOに勤務し、地球環境問題を文明の問題として捉え、持続可能な文明のあり方を探る活動に携わっていました。現在も、京都に事務所を置く、調査研究・政策提言型の環境NPOの運営に携わっています。持続性問題とも呼べる今日の環境問題は、世界の人工化を進めてきた人類が遂に地球の大きさという限界に突き当たったものと見る事ができます。このことは自然環境を改変し、世界を人工化していく開発というコンセプトの終焉を意味しており、人類は歴史的な大転換を迫られているのだと思います。学生や教職員の皆様、また地域の皆様と共に、鳥取発の新たな暮らしと文明のあり方を提案していければと考えています。



建築・環境デザイン学科
遠藤 由美子 准教授

建築・環境デザイン学科に着任いたしました遠藤です。私は、これまで20年間建築の設計事務所を

広島で共同主宰、特にインテリア・家具のデザインを担当してまいりました。その間、大学の建築学科などで非常勤を長く務め、デザインの面白さを伝える喜びを感じておりました。学ぶ楽しさを伝え、学生の皆さんには、それを生かす仕事に夢をふくらませてほしいと思っています。私は、デザインは生き方に通ずる学問だと思っています。本学は、環境を大切にする思想を根底に各分野でどのように社会貢献できるのかを学ぶという点で、生き方の大事な方向性を示しています。これまで設計した住宅や施設の中で、地熱や太陽熱を利用したものがありますが、そこから建築主が得られる快適性は、多少の手間があっても積極的に自然に関与して生きているという、生き方に対する満足感です。問題に対し多面的に解決を探るデザインを学ぶことで、学生の皆さんには社会の中で力強く生きる力を身につけてもらえれば幸いです。



環境マネジメント学科
佐藤 伸 講師

皆様、はじめまして。2009年4月1日付けで鳥取環境大学・環境マネジメント学科の講師に着任しました

佐藤伸と申します。私はこれまで学生、研究員を通じて木質系バイオマスを分解する微生物の機能について研究をしてまいりました。本学では環境とバイオマス変換をキーワードに講義や研究を行う予定です。現在、新聞や雑誌をはじめ、多くのメディアでバイオエタノールについての記事を見かけるようになりました。環境にやさしい再生可能な資源であるバイオマスは、単に化石燃料に代わるバイオエタノールの原料としてでなく、様々な形に物質変換できる可能性をもっています。自然が豊かでバイオマス資源となる材料も豊富な鳥取の地の利を活かし、これまでの概念にとらわれないユニークな発想で、バイオマス変換のための技術やプロセスを学生とともに研究していきたいと考えております。



情報システム学科
染谷 治志 教授

平成21年4月1日付で本学情報システム学科に着任いたしました、染谷治志と申します。「総合的

な視点とシステムのアプローチで、社会・生活活動における諸問題を的確に発見して効率的に解決できる、問題追求型の人材育成」に取り組んでいく所存です。無限の可能性を秘めている学生のみなさんと一緒に、世界を広く観察し自由かつオープンなコミュニケーションを深め、自然と共生する私たちの社会・生活に新たな価値を生む情報システムの創造にチャレンジしていこうと考えております。また、前職での企業情報システムの研究開発の経験を活かし、情報システムの社会・生活活動における役割、情報システムを創る楽しさと難しさを伝えていきます。私は、教員一年生です。さまざまな経験を積んで教育の力量を身に付け、英国で行われている歴史的な科学講座である「クリスマス・レクチャー」に近づきたいと思っております。どうぞ宜しくお願い申し上げます。